

「インフラ老朽化の脅威から、われらのまちを守れるか?」

「人手不足時代に束でたちむかう、

新たなヒーロー大集合

群マネ

入門超百科

ダイジェスト版

- 「群マネ」ってなんだ?
- 先行事例のひみつを大解剖
- 明日からつかえるQ&A付き



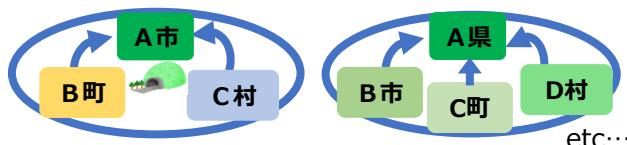
イラスト：国土交通省ウェブマガジン
「Grasp」寡黙なヒーロー

国土交通省 (2025年10月)

「群マネ」ってなんだ?

「地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）」とは、技術系職員が限られる中でも、的確なインフラメンテナンスを確保するため、複数自治体のインフラや複数分野のインフラを「群」として捉えることで、効率的・効果的にマネジメントしていく取組です。

広域連携の群マネ



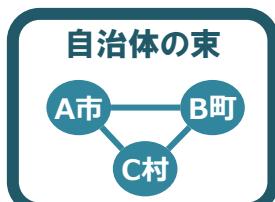
市区町村同士の「水平連携」や都道府県も関与する
「垂直連携」により、自治体の枠を越えてマネジメント

多分野連携の群マネ



道路や河川、公園、下水道など、
インフラ分野の枠を越えてマネジメント

【3つの束】



発注者としての連携体制
(自治体間、部署間)

人材育成、技術者連携の
ネットワーク化

受注者としての連携体制
(JV、事業協同組合等)

スケールメリットや創意工夫により、メンテナンス業務を効率化

【マネジメント戦略】

- 契約年数を束ねる
- プロセスを束ねる
- データを束ねる
- 性能規定等の導入

【先行事例における効果の声】

発注者



職員の直営対応時間が減った

(発注作業の分担や、性能規定による業者指示の効率化など)

インフラ管理者としての本来業務

に注力できるようになった

(計画策定への新規着手、工事発注の増加など)

職員の技術力が向上した

(技術力のある自治体と一緒に仕事をすることで、学びが進む)

不調・不落件数が減少した

事業者



作業そのものが効率化した

(パトロールを一本化、近隣現場を同時に作業、舗装補修と路面清掃をセット化など)

創意工夫が発揮しやすくなつた

(都度指示ではなく、事業者側からも新技術や作業方針を提案)

人員や資機材の確保が

しやすくなつた

(JVメンバー間で時期の調整や融通)

書類作成の手間が減つた

(JVの代表企業に一本化され、構成企業は作業に集中)

地元業者の技術力が向上した

(JV等により事業者同士がこれまでよりも深く連携)

新たな雇用や設備投資に

結びついた

(複数年契約などで見通しがついた)

住民



インフラ維持管理への満足度が向上した

(以前よりも、相談後の対応が迅速化したり、先回りで対応がなされるようになった)

先行事例のひみつを大解剖

【広域連携の先行事例】



奈良県

県が市町村の
橋梁やトンネルの点検、
補修設計、修繕工事等を代行

市町村合併があまり進まず、規模が小さい市町村が多く存在する中、県と市町村、あるいは市町村同士の連携・協働を図った。



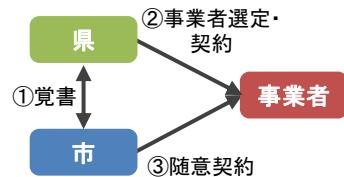
市町村の技術者不足を県が補完する先駆的モデル
(市町村職員の県への派遣で技術的ノウハウ習得も)



静岡県-下田市

県と市が道路の
日常維持管理を共同発注

伊豆半島では過疎化が進む中、南海トラフ地震による津波をはじめ、将来発生が懸念される災害に対して、行政・地域建設業双方の体制を維持しておくため、平時から管理体制の効率化に着手。



県道と市道を同一事業者が管理することで、
パトロールや近隣箇所の作業を効率化

【多分野連携の先行事例】



新潟県三条市



現業職員の高齢化等により、直営作業の継続性が懸念されるとともに、豪雨災害などが頻発する中で地元企業の活躍を促すために、取組に着手。



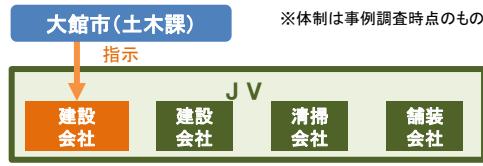
**市外コンサルが舗装補修などのデータ分析を担い、
地元業者の作業効率化をサポート**



秋田県大館市



技術職員の減少に加え、昨今の豪雨災害の対応が増加傾向であり、
応急ながら継続的に発生しており、限られた資源(資金・人材)を柔軟に配置できる新たな取組へ着手。



**地元業者のみで構成されたJV内で、
特殊車両や機材を融通して作業効率化**



三重県明和町



事業者や職員体制の縮小に対する危機感の中、50年先も住民が安心して道路を使い続けられる地域社会を維持するという自治体の使命を果たすために、取組に着手。



**町内業者が現場作業を担いつつ、マネジメント業務や
コールセンター業務を町外業者がカバー**



栃木県



財政健全化プログラムとして、県の出先機関の統廃合や人員削減がされる中、県建設業協会からも建設業協同組合の活用の提案があり、取組に着手。



